

小ギク栽培情報

令和3年産 第1号（4月号）

7～8月咲き小ギクについては、挿し芽を終えられ、現在は育苗中の方がほとんどかと思えます。今年の春は比較的晴天が多く気温も高く推移していますので、挿し芽から10日以上経っている方は発根状況を確認してください。密閉挿しで育苗している方で、発根している（セルトレイの底穴から根が少し出ている）場合は、トンネルから出して順化させるようにしてください。

さて、今号では、定植直後の管理作業のうち、①エテホン処理、②病害虫防除についてお知らせします。

1. エテホン処理

- ・ 8月盆前出荷向けに栽培している品種の中で、7月上中旬に開花してしまう品種に対して、エテホン（商品名：エスレル10）を散布します。
- ・ エテホン散布により、季咲きに比べて1週間～10日程度開花が遅れます。
※品種によって効果に差があります。初めて散布する品種に対しては、散布するところとしな
いところをつくって差を確認するようにしてください。
- ・ 散布時期は、1回目が定植後1週間以内となります。摘心を定植後に行う場合は、摘心後に散布してください。
- ・ 2回目の散布は、1回目の10～14日後に行います。
- ・ 500倍に希釈した液を株全体が濡れる程度に噴霧します（500倍希釈液 3ml/株）。

2. 病害虫防除（定植時～5月中旬）

この時期は、**白さび病とアブラムシ類の発生に注意しましょう！**

栽培初期に白さび病を出してしまうと栽培終盤まで影響を及ぼします。定植1週間～10日後にジマンダイセン水和剤を散布して予防に努めてください。散布後薬剤が乾いたときに葉の上に剤の白い粉が残るくらいまでしっかりと散布してもらえると高い予防効果が得られます。

万が一、発生がみられた場合は、ラリー乳剤等治療効果のある薬剤を散布してください。

表 定植時～5月中旬の防除ローテーションの例（令和3年4月2日時点での登録のもの）

| 時期 | 対象病害虫 | 薬剤名 | 使用量・倍率 | 回数 | RACコード |
|-------|--------|------------|-----------|----|--------|
| 定植時 | アブラムシ類 | ジェイエース粒剤 | 6～9kg/10a | 5回 | I:1B |
| 生育初期① | さび病 | ジマンダイセン水和剤 | 400～600倍 | 8回 | F:M3 |

※農薬の使用に当たっては、必ず薬剤容器ラベルの記載事項を確認し、適正に使用してください。